

第13章 原原種・原種の育成配布

第1節 原採種事業の変遷

1. 明治時代

明治36年4月22日付徳島県令第41号により徳島県農事試験場種苗及種畜配布規則が制定され、米麦については当场開設当初からすでに原種の生産および配布が行われていた。当時の主要品種は、水稻では石白、大泉、穀良都、丹波出雲、雄町、都、神力、讃岐、権八、裸麦では、九州、白珍好、香川、小麦では宝満、筑摩、大麦では、ゴールデンメロン等であった。明治41年には本県に栽培されている米麦の主要品種別作付面積の調査を行い、これを参考にして原種の生産計画を樹立した。

水稻では、明治42年より場内に原種田を設置して各郡市役所または郡市農会設置播種田に無償配布することとし、その他は一般配布用原種田として耕種していた。その面積は合計で1町1反7畝26歩であった。この理由としては、県下水稻(粳)の作付面積を2万500町歩とすれば、これに要する種子は反当4升として1万石になる。これを5か年計画で県下全体に良種の普及をすれば、1か年に2000石の種糶が必要となる。これを10郡に配当すれば1郡200石となる。この採種に要する一郡の原種田は平均5町歩(反当4石)の割合となる。これに要する原種を試験場において採種するためには約7反歩の原種田を設置することが必要であった。各郡市役所、郡市農会原種田に毎年無償配布する原種は約20石でその品種および作付割合は、早稲10%で品種は権八、中生稲20%で雄町、晩稲70%で神力を作付けした。これが奨励品種の始まりであると解される。

各郡市役所または郡市農会原種田に無償配布する原種は配布を受ける郡市管内の水稻粳総作付面積により按分して配当された。

その他一般に配布する原種名、数量などは本場種苗配布規程によりその都度県告示をもって発表し、申し込みを受けて配布した。

麦の場合、各都市役所または郡市農会設置の水稻原種田の裏作として無償配布する原種を採種するために8反歩の原種圃を設けた。

各郡市役所または郡市農会原種田に毎年無償配布する原種は約12石でその品種および作付割合は裸麦80%で品種は九州、白珍好、香川、小麦は20%で品種は筑摩、宝満であった。

各郡市役所または郡市農会に無償配布する原種は配布を受ける郡市または郡市農会の水稻原種田面積により按分して配当した。

その他一般へ配布する原種名、数量などは本場種苗配布規程により水稻の場合に準じて配布した。

2. 大正時代

種子対策事業が制度化された時代である。大正5年米麦品種改良奨励規則が公布され、都道府県に奨励金が交付されるようになった。大正8年には、農林省はさらに事業の拡充を図るため、新たに主要食糧農作物改良増殖奨励規則を公布して、都道府県における米麦等主要食糧農作物の品種改良と優良種子の生産配布についての事業規模の拡充を奨励した。

本県にあっては、当時農事試験場の圃場は水利の関係や、ごまはがれ病の多発などで水稻原種圃としては不適當であったので漸次土地改良を行うため、大正2年に農事試験場委託原種田規程を設けて水稻原種の栽培にあたった。すなわち、大正2～5年までは御所、生比奈、佐那河内各村で1町5反歩の委託原種圃を設置した。大正6～8年

の間は前記原種圃を名東郡佐那河内村上嵯峨に移した。また大正9～14年の間は名東郡加茂名町東名東中分（現在徳島市名東町）に移していずれも試験場の直営で原種を生産し配布した。麦類の原種圃はその間も試験場内に設置した。面積は大正2～10年は約50a、同11～15年は1ha程度に拡張された。

この時代の主要品種は、水稻では前半の大正2～8年が権八、雄町、神力、改良神力、坊主権八、早生神力、讃岐、新関取、後半は徳島権八12号、徳島雄町6号、徳島早生神力3号、徳島早生神力129号、徳島改良神力11号、徳島神力9号、徳島神力156号、徳島新関取17号、徳島讃岐19号、徳島讃岐143号、徳島中稲1号、畿内晩33号、徳島高尾糯38号、裸麦では前半が九州、白珍好、香川裸、養父、米裸、後半が徳島珍好83号、徳島珍好1号、徳島九州13号、徳島香川裸73号、徳島米裸1号、徳島養父45号、小麦では前半が宝満、筑摩、後半は徳島宝満3号、徳島筑摩29号、中相州畿内5号であった。

その他では、昭和2年に養鶏事業を種畜場に移管するまで明治末期から引き続き種卵の配布が行われた。

3. 昭和時代（戦前）

大正15年に至り、大正14年まで場外に設置していた水稻原種圃を本場内に移して米麦とも場内で原種の生産を行うようになった。設置面積は当初米麦とも約1haであったが、昭和3年には県令第14号により「徳島県立農事試験場米麦原種配布規則」が改定され、米麦ともに1.5haに拡張された。その後昭和7年には国において小麦増殖奨励規則を公布し、小麦育種組織の拡充、原種圃の設置等の奨励を行ったため、本県においても小麦原種圃を従来の0.5haから1.1haに増殖し、小麦奨励品種決定試験を開始した。昭和13年には富岡試験地と池田試験地が新設され、原種栽培を分担するようになった。

富岡試験地では、水稻1.5ha、裸麦1haの原種圃を設置して昭和13～19年の7年間は水稻および裸麦の原種は全てここで生産した。

この時代の代表的品種は、水稻では徳島旭7号、

徳島晩稲1号、徳島神力36号、徳島大泉15号、徳島虎丸5号、徳島高尾糯38号、裸麦では、徳島珍好83号、徳島珍好1号、徳島米裸1号、徳島九州13号、徳島小ピン6号、徳島白麦8号、小麦では徳島筑摩29号、中相州畿内5号、徳島宝満3号等であった。

水稻・麦類の他にこの時代にはダイコン、大豆、カンショ、トウモロコシ、陸稲の原種圃が設置され原種の生産と配布が行われた。

大豆は、昭和10年に本場内に25aの原種圃が設置され、八月大豆、目白、花不知の原種を生産し、徳島県立農事試験場大豆、甘藷配布要項に基づいて無償で配布された。昭和13年以降は池田試験地で大豆原種の生産を担当するようになった。

トウモロコシは、昭和13年に増殖5か年計画の第1年目として委託採種圃2haに無償配布する原種を生産するため、池田試験地に3aの原種圃を設置した。その後面積を5a程度に増加し、品種は徳島黄色在来種から奨励品種に採用された徳島1号に変えて昭和24年まで無償で採種圃に配布した。

陸稲は、昭和16年池田試験地に10aの原種圃を設け、陸稲農林5号、陸稲農林糯6号の原種栽培を開始し、その後も昭和44年まで生産と配布を続けた。

4. 昭和時代（戦後）

戦後占領下における各種行政措置の1つとして補助事業の整理が行われ、各種規則の廃止と補助金の交付打ち切りが行われたため、都道府県における種子対策事業は各県独自の立場から実施された。そのため事業は弱体化し、食糧生産上問題となったので、昭和27年に「主要農作物種子法」が公布され法的措置の下に種子対策事業が実施されることになった。昭和28年および同32年に一部改正されたが、引き続き同法に基づく原原種・原種圃の運営が行われ今日に至っている。

本県の状況を見ると、水稻および麦類については昭和24年までは本場、富岡分場、池田分場で分担して生産していたが、昭和25年に久勝原種圃が新設されたので、その後は4場所で原種生産を分担した。しかし、本場移転に伴う分場や試験地の

統廃合により昭和44年3月には阿波原種農場（久勝原種圃）昭和46年6月には阿南試験地（富岡試験地→富岡分場）が廃止され、その後は本場のみで担当するようになった。本場では作物科が担当していたが、昭和44年に管理科が新設され46年までの3年間は管理科（昭和45年4月には管理係と改称）と作物科で原種生産を分担した。しかし、47年以降は再び作物科が全て担当するようになった。その後米麦種子の需要増大や農業情勢の変化に対応すべく昭和54年には育種科が新設されて以後は米麦原種および原原種の生産と配布は全て同科が担当するようになった。ただし、麦類原種の内ビール大麦については、ビール会社との契約栽培で、種子は毎年全量更新すること、および栽培方法が全面全層播となり播種量が多くなったことなどにより場内での対応は圃場面積の関係からも不可能となった。そのため昭和51年からは美馬郡協町で4.5ha程度の委託栽培を行うようになった。

昭和57年度の原原種および原種圃の設置面積は、原原種圃水稻10a、麦類50a、原種圃水稻1.2ha、

麦類5.3ha（内4.35haは委託栽培）である。

この時代の代表的品種は、水稻では徳島晩稲1号、農林18号、愛知旭、シモツキ、農林37号、アケボノ、ミホニシキ、金南風、サチワタリ、農林29号、日本晴、ミネユタカ、越路早生、コシヒカリ、徳島高尾糯38号、祝糯、コトブキモチ、クレナイモチ等であり、裸麦では徳島白麦8号、赤神力、徳島香川5号、ハヤウレハダカ、ユウナギハダカ、小麦では農林52号、農林65号、シラサギコムギ、ビール大麦ではさつき二条である。

陸稲は、昭和16年から引き続いて戦後も池田分場で栽培されたが一般農家の栽培面積が漸減したため、昭和44年を最後に栽培および配布を打ち切った。

大豆は、原原種・原種とも戦前から引き続いて池田分場で栽培を担当し今日に至っている。昭和57年度の設置面積は、原原種10a、原種50aである。

トウモロコシは、戦後も昭和24年まで池田分場で5a程度の原種圃が設置されて徳島1号の原種を生産し採種圃に配布したが、その後は中止された。

第2節 原種の配布方法と採種圃の設置

明治の末期より大正時代にかけては、原種の配布は、各都市役所または都市農会の経営する採種圃に配布するものと、直接一般に配布するものの二本立ての制度をとっていたが、大正10年には米麦原種配布規則ができ、原種は採種圃を経営する市町村・市町村農会に配布し、残余がある時に限り学校・団体あるいは当業者に配布するようになった。

採種圃の設置は、昭和27年に主要農作物種子法が公布されるまでは、市町村・市町村農会が行っていたが、その後は市町村長の申請により知事が指定することとなり市町村単位となった。その後

種子法の一部改正により、地域単位の採種様式をとるようになり、本県においても昭和47年以降は美馬郡協町に種子場を設け、ここで全て採種されるようになった。ただし、水稻早期栽培用品種については県内では良質種子の生産が困難なこともあって、原原種・原種とも県内では栽培せず、県の米麦協会が富山県と長野県で委託契約栽培を行っている。配布は、戦前頃までは無償であったが、戦後（時期は明確でない）は有償となった。ちなみに昭和58年度の配布価格は、1kgあたり水稻300円、裸麦285円、小麦275円、ビール大麦297円である。

第1表 当场開設後の原種配布実績

作物名 年次	水	稲石	陸	稲石	裸	麦石	小	麦石	大	麦石	大	豆石	トウモロコシ	カンショ貫	ダイコン石	種	卵個
明治36年		2.00		0.50													
37		2.30		0.57	1.00		0.20		0.20								200

第13章 原原種・原種の育成配布

作物名 年次	水 稲石	陸 稲石	裸 麦石	小 麦石	大 麦石	大 豆石	トウモロ コシ石	カンショ 貫	ダイコン 石	種 卵 個
明治38年	1.50	0.50	1.10	0.18	0.15					
39	1.50	0.50	1.00	0.20	0.15					
40	1.80	0.50	1.00	0.20	0.15					
41	5.10	0.80	1.30	0.25	0.15					
42	20.20	0.90	3.20	0.25	0.25					457
43	20.28		6.40	0.30	0.30					480
44	21.20		7.05	0.30	2.20					557
大正1年	15.91		10.92 (麦類全体)							525
2	16.82		13.16	1.40						625
3	14.72		15.08	1.16						165
4	11.96		3.29 (麦類全体)							0
5	5.72		6.12	"						12
6	6.76		8.39	"						74
7	8.68		4.00	0.42						70
8	2.57		3.00	0.25						13
9	8.79		2.78	0.27						0
10	15.89		2.88	0.27						280
11	25.81		5.26	0.56						956
12	20.84		12.63	1.62						895
13	28.36		12.98	1.26						1,339
14	31.12		11.06	6 2.29						913
昭和1年	27.34		14.32	2.82						816
2	35.42		12.82	2.75						505
3	43.50		14.04	2.39						
4	42.98		14.71	5.18						
5	50.87		11.30	6.07						
6	31.20		15.87	6.84						
7	57.54		19.53	6.75					0.53(有償)	
8	48.45		12.63	15.23					1.11	
9	43.47		19.64	15.77					0.58	
10	44.64		19.27	16.23		1.72	878	0.65		
11	46.94		18.16	15.49		2.51	760	0.80		
12	45.72		19.40	14.90		2.35	0	0.83		
13	49.02		13.82	12.40		2.80	0.41	1,011	0.83	
14	50.02		19.65	22.65		2.82	0.80	2,443	0.82	
15	49.75		19.90	15.30		2.80	0.80	2,460	0.80	
16	49.18	1.18	18.83	15.30		3.13	0.76	2,680	0.82	
17	48.79	3.00	34.98	15.30		2.95	0.90	2,235	0.85	
18	49.51	3.00	34.99	15.80		4.42	0.80	2,750	0.80	
19	49.00	2.49	34.83	15.15		4.01	0.80	2,400	0.80	

第2編 研究業績

作物名 年次	水 稲 石	陸 稲 石	裸 麦 石	小 麦 石	大 麦 石	大 豆 石	トウモロ コシ 石	カンショ 貫	ダイコン 石	種 卵 個
昭和20年	36.30	2.50	34.30	7.20		3.03	1.25	500	0.40	
21	48.10	3.97	17.40	10.30		1.49	0.80	800	0.40	
22	48.00	2.88	32.60	12.60		4.32	0.80		0.60	
23	38.30	0.96	10.50	8.00		1.44	0.40		0.60	
24	37.40	2.88	13.20	7.30		2.60	1.00		1.70	
25	42.99	1.20	19.60	9.60		2.30			1.48	
26	48.33	0.	29.10	9.60		2.30			2.90	
27	50.81	0.	28.40	9.04		2.30			1.45	
28	35.92	1.60	31.50	7.40		2.20			3.89	
29	39.52	1.80	29.70	7.40		2.32			3.98	
30	45.03	2.57	30.56	7.52		1.47			3.05	
31	38.41	1.61	27.53	5.25		3.00			2.93	
32	34.38	2.25	17.43	4.31		2.10			2.29	
	kg	kg	kg	kg	kg	kg			l	
33	3,145	114	2,485	669		381			268	
34	3,470	70	3,870	570		336				
35	3,474	165	2,466	630		280				
36	3,318	89	2,134	948		184				
37	2,349	77	1,066	942		190				
38	1,847	25	690	280		56				
39	2,088	24	900	613	ビール大麦	160				
40	2,685	25	2,693	1,562	543	56				
41	3,217	25	1,732	1,340	550	24				
42	3,670	25	1,740	870	350	24				
43	2,950	20	1,594	1,024	560	24				
44	3,659	74	1,879	1,553	450	180				
45	3,549		734	447	518	375				
46	969		269	384	1,215	300				
47	3,774		1,876	369	1,200	355				
48	4,411		212	110	1,650					
49	3,785		290	230	1,462					
50	2,180		170	450	800					
51	2,025		316	465	5,000					
52	1,983		560	385	6,404					
53	1,801		370	300	6,593					
54	1,632		725	860	9,000					
55	2,711		450	600	9,000	200				
56	2,510		510	1,331	9,000	415				
57	2,178		300	910	8,700	860				

第13章 原原種・原種の育成配布

第2表 水稻の時代・品種別配布数量

明治42年		大正10年		昭和10年	
品種名	数量石	品種名	数量石	品種名	数量石
石白	1.00	徳島権八12号	0.86	徳島権八12号	0.64
大泉	0.30	" 早生神力129号	1.77	" 早生神力129号	3.13
穀良都	0.30	" " 3号	1.92	" 大泉15号	1.05
丹波出雲	13.00	" 雄町6号	0.74	" 早生3号	1.13
雄町	0.30	" 改良神力11号	2.06	" 農林2号	12.00
都	0.30	" 神力9号	2.95	" 旭7号	12.01
神力	4.00	" " 156号	2.08	" 神力36号	2.12
神讚岐	1.00	" 新関取17号	1.54	" 改良神力1号	1.67
		" 讚岐19号	1.08	畿内晩33号	1.24
		" " 143号	0.89	徳島晩稲1号	3.24
				" 虎丸5号	1.22
				" 高尾糯38号	5.19
合計	20.20		15.89		44.64

第3表 麦類の時代・品種別配布数量

明治44年		大正11年		昭和10年	
品種名	数量石	品種名	数量石	品種名	数量石
九州	4.40	徳島珍好82号	0.93	徳島珍好1号	2.49
裸白珍好	1.00	" " 83号	1.23	" " 83号	3.49
香川裸	0.90	" " 85号	1.55	" 九州1号	0.98
麦養父	0.60	" 九州46号	0.15	" 米裸1号	0.78
米裸	0.15	" " 110号	0.23	" 白麦8号	9.88
小宝満	0.15	裸 " " 在来	0.22	" 香川5号	1.65
麦筑摩	0.15	" 香川裸73号	0.20	小江島神力	8.44
大倍取	1.10	麦 " " 76号	0.28	中相州畿内5号	4.86
麦ゴールデンメロン	1.10	" " 在来	0.08	麦 徳島宝満3号	2.93
		" 養父54号	0.15		
		" " 45号	0.10		
		" 米裸	0.13		
		小麦 徳島筑摩	0.23		
		" 宝満	0.34		
合計	9.55		5.82		35.50

第4表 最近の水稻品種別配布数量

品種名	年次			
	昭和55年	56	57	58
日本暗	840 kg	972 kg	990 kg	1,050 kg
ミネニシキ	629	510	405	490
サチワタリ	260	115	114	120
ミネユタカ	293	303	262	210
オオセト	300	410	225	350
アケボノ	130	0	0	0
クレナイモチ	259	200	182	285
合計	2,771	2,510	2,178	2,505

第5表 最近の麦類品種別配布数量

品種別	年次			
	昭和55年	56	57	58
さつき二条	8,400 kg	8,600 kg	8,700 kg	8,700 kg
あかぎ二条	600	400		0
ユウナギハダカ	100	90	175	175
ビワイロハダカ	350	420	125	30
シラサギコムギ	600	1,331	910	819

第3節 奨励品種の変遷と作付動向

1. 水 稲

(1) う る ち

当時開設後大正中中期にかけては、主として在来種やそれらからの純系分離によって選出された品種で占められ、神力と権八の全盛時代であった。権八は本県で古くから栽培された早生種であり、作柄が安定している点とワラが細くねばりがあり、ワラ加工用としても適したため積極的に栽培された。その後権八の純系分離により王子権八、坊主権八、権八82号等の優秀品種を選抜して一般に普及した。神力についても、岡山神力、改良神力、鹿児島神力、伊予神力等が出現し、その内伊予神力はその後永く本県に栽培された。

大正中期から昭和10年頃にかけては、純系淘汰と人工交配による品種改良が進み、その結果育成された代表的品種として徳島晩稲1号、徳島旭7号、徳島神力36号、徳島虎丸5号などがあり、これらはいずれも本県の気候風土に適し広く栽培された。特に徳島晩稲1号は昭和20年には作付面積の第1位を占めるに至った。昭和10～20年頃には愛知旭、亀治2号、みのる、剣、農林8号、農林18号などの新交配種が奨励品種に採用され、その内愛知旭、農林8号、農林18号は昭和30年過ぎまで良質多収品種として作付面積の上位を占めた。

戦後は、食糧増産の時代が続き、農林29号、ヤマビコ、サチワタリ、金南風、農林37号、ミホニシキ、アケボノなどが主要品種であった。昭和40～45年頃には、短稈、多肥、多収性品種としてナギホ、トヨサト、トヨタマなどの出現をみたが、これらはいずれも品質が十分でなく、米過剰時代を迎えた昭和45年以降はほとんど姿を消した。また、この頃から農作業の機械化が急速に進み、田植機が普及し始めたため、従来の品種は長稈で倒伏に弱かったり、良質米の生産が叫ばれるようになった結果、次第に栽培面積が減少して、現在の

奨励品種に入れ替った。

昭和30年頃からは早期栽培が普及し始めたために極早生用の品種が導入され、初期には農林17号、トワダ、ササシグレなどが奨励品種に採用されたが、現在では、これらの品種は姿を消し昭和37年に採用された越路早生とコシヒカリが倒伏に弱い欠点を持ちながらも良質米として栽培されている。

近年品種の早生化が進むと共に、機械化適応性の高い短強稈で良質な品種へと変わってきた。現在は奨励品種普及率が88%程度に高まり、品種別では早生種の日本晴が作付面積の大半を占めている。

(2) も ち

明治末期から大正中期にかけては、天子糯、井本糯、一本糯などが主として栽培されていたが、大正中期からは高尾糯が栽培されるようになった。その後品種改良により高尾糯から徳島高尾糯38号を選出し、大正12年に県の奨励品種に採用されて広く栽培されるようになった。この品種は、餅質が極めて良かったため、昭和37年頃まで糯種の代表的品種として栽培され続けた。しかし、この頃より全体に早生品種の要望が高まり、昭和29年にコトブキモチ、同33年に祝糯が奨励品種に採用され、これに代って徳島高尾糯38号は同39年に奨励品種から廃止されたので作付面積は減少した。その後はコトブキモチと祝糯が主として栽培されたが、いずれも機械化適応性が劣るため、田植機が普及し始めた昭和45年頃からこれに代わる品種の要望が強くなり、昭和50年にクレナイモチを奨励品種に採用し、現在はこれが主要品種となっている。

早期栽培用のもち品種としては、県の奨励品種ではないが、昭和30年頃から信濃糯3号が主として栽培され、現在においてもかなりの栽培が行われている。

第13章 原原種・原種の育成配布

第6表 水稻奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
石 権 八 雲 出 雲 取 張 把 力 撰	明治37年に よいとされ ていた品種			原産地 富山県 " 徳島県 " 京都府 " 三重県 " 埼玉県 " 大阪府 " 兵庫県 " 三重県
石 大 穀 良 丹 波 出 雲 町 雄 都 神 讚 岐	明治42年に 原種圃が設 置されてい た品種			
徳 島 権 八 12 号 " 早生神力 3 号 " 雄 町 6 号 " 新 関 取 17号 " 改良神力 11号 " 神 力 9 号 " 讚 岐 19号	大正9年に 原種圃が設 置された品 種	昭和10 大正11 昭和2 大正13 昭和11 大正15 大正11	15 2 7 4 16 6 2	大正6年原種決定試験始まる。 大正7年名東郡佐那河内村で原種圃1ha設置 する。 大正9～14年の間は名東郡加茂名町に1ha設 置する。
徳島早生神力 129号 " 神 力 156号 " 讚 岐 143号 " 中 稻 1 号	大正10 " " 大正12	昭和11 大正14 " 14 昭和1	15 4 4 3	
徳島高尾糯 38号 畿内晩 33 号	" "	" 39 " 11	41 13	
徳島 旭 7 号 " 神 力 36号 " 晩 稻 1 号 " 大 泉 15号 " 中稻 稻 2号 " 虎 丸 5号 " 早 生 3号	大正13 " " 大正15 昭和1 " 2 " 5	" 29 " 18 " 32 " 10 " 8 " 11 " 10	30 19 33 9 7 9 5	大正13年交配種固定試験始まる。 大正15年場内に原種圃を移し1ha設置する。
農 林 2 号 早 生 旭 愛 知 旭 み の る 剣 農 林 8 号	" 8 " 10 " 11 " 11 " 11 " 15	" 15 " 18 " 34 " 27 " 27 " 32	7 8 23 16 16 17	昭和8年に奨励品種査定会規定ができる。

第2編 研究業績

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
亀 治 2 号	昭和17	昭和33	16	
農 林 18 号	" 18	" 39	21	
農 林 51 号	" 24	" 29	5	
千 本 旭	" 27	不 明	不 明	準奨励品種
西 海 21 号	" 27	"	"	"
黄 玉	" 27	"	"	"
シ モ ツ キ	" 27	昭和35	8	
農 林 37 品	" 27	" 39	12	
農 林 22 号	" 28	不 明	不 明	準奨励品種
コ ト ブ キ モ チ	" 29	昭和50	21	昭和29年原種決定試験は1/2園補となる。
ア ケ ボ ノ	" 29	" 57	28	
ミ ホ ニ シ キ	" 30	" 42	12	
サ チ ワ タ リ	" 32		継 続	
農 林 17 号	" 33	昭和37	4	準奨励品種, 早期用
祝 糶	" 33	" 48	15	"
農 林 29 号	" 33	" 48	15	準奨励品種
山 陰 46 号	" 33	" 39	6	"
シ オ ジ	" 34	" 39	5	
ト ワ ダ	" 34	" 37	3	早期用
サ サ シ グ レ	" 35	" 39	4	"
セ ト ホ ナ ミ	" 37	" 49	12	
越 路 早 生	" 37		継 続	
コ シ ヒ カ リ	" 37		"	
ナ ギ ホ	" 39	昭和44	5	
ト ヨ サ ト	" 39	" 45	6	
ヤ マ ビ コ	" 39	" 53	14	
ウ ズ シ オ	" 42	" 48	6	
日 本 暗	" 44		継 続	
ト ヨ タ マ	" 45	昭和48	3	
ア キ ツ ホ	" 48	" 49	1	準奨励品種
ミ ネ ユ タ カ	" 48		継 続	48年は準奨, 49年から奨品採用
ク レ ナ イ モ チ	" 50		"	
ミ ネ ニ シ キ	" 53		"	
オ オ セ ト	" 57		"	

第7表 陸稲奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
陸 稲 農 林 5 号	昭和16	昭和48	32	
" 糶 6 号	" 16	" 35	19	
" 糶 1 号	" 23	" 48	25	
" 22 号	" 35	" 48	13	準奨励品種
" 糶 20 号	" 35	" 48	13	"

2. 麦 類

(1) 裸 麦

明治末期から大正中期にかけては在来種の中から多収性のものを選出して奨励した。九州、白珍好、香川裸、養父、米裸などがこの時代の主要品種として栽培された。大正中期から昭和10年頃には、純系淘汰や人工交配による品種改良が行われ、その結果選抜された代表的品種として徳島珍好83号、徳島珍好1号、徳島白麦8号、徳島香川5号があり、その内徳島白麦8号は、良質で多肥増収性品種として、また、徳島香川5号は、少肥栽培

用適品種として昭和40年代まで広く県下に栽培された。昭和13年には早生裸が奨励品種に採用され、平坦部のたばこ前作として栽培された。戦後昭和30年頃までは食糧事情が悪く、増収品種の要望が高かった時代で、赤神力、セトハダカ、ハヤウレハダカなどが奨励品種に加えられ栽培面積も多かった。しかし、昭和30年代後半からは食糧事情が好転したため栽培面積が激減して現在に至っている。昭和58年現在奨励品種はユウナギハダカとヒワイロハダカの2品種であるが、ヒワイロハダカは伸び悩んでいる。

第8表 裸麦奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
九 州	明治42	大正11	13	原種園が設置されていた品種 原種は約63 a 大正11年麦原種園を1 haとする。
白 珍 好	" 43	" 10	11	
香 川 裸	" 43	" 11	12	
養 父	大正 6	" 10	4	
米 裸	" 6	" 9	3	
徳島 珍 好 83号	" 10	昭和33	37	
" 九 州 110号	" 10	" 2	6	
" 香川裸 73号	" 10	" 6	10	
養 父 45 号	" 10	" 2	6	
" 米 裸	" 10	大正14	4	
" 九 州 13 号	" 13	昭和14	14	
" 珍 好 1 号	" 14	" 30	30	
" 米 裸 1 号	" 14	" 14	14	
" 白 麦 8 号	" 15	" 48	47	
" 小ビン 6 号	" 15	" 6	5	
" 香川 5 号	昭和 6	" 39	33	
早 生 裸	" 13	" 31	18	
赤 神 力	" 23	" 36	13	
セ ト ハ ダ カ	" 28	" 36	8	
ハ ヤ ウ レ ハ ダ カ	" 30	" 50	20	
ハ シ リ ハ ダ カ	" 31	" 36	5	
コ ウ ナ ギ ハ ダ カ	" 33		継 続	
シ ラ ヒ メ ハ ダ カ	" 39	昭和48	9	
ヒ ワ イ ロ ハ ダ カ	" 54		継 続	

(2) 小 麦

明治末期から大正10年頃までは、宝満、筑摩の原種園が設けられ種子が配布されたが、裸麦に比べて栽培面積は少く、明治44年には約4,370町で

裸麦の7分の1であった。その後純系淘汰により徳島筑摩29号、徳島宝満3号が選抜され昭和10～15年頃まで主要品種として栽培された。昭和7年には徳島筑摩29号を廃止し、江島神力を奨励品種に採用したが、この品種は大粒良質であり県下一

第2編 研究業績

円に普及した。昭和7年以降は、小麦増産計画が立てられると共に奨励品種決定試験が開始され、昭和14年には小麦農林43号、昭和19年には小麦農林52号、小麦農林65号などの農林省育成品種が奨励品種に採用されていった。

戦後は、肥料事情の好転に伴い長稈で倒伏に弱い江島神力や収量性のやや低い小麦農林43号が次第に減少し、小麦農林65号と小麦農林52号に変わ

っていった。その後昭和36年にシラサギコムギ、昭和42年にウシオコムギが奨励品種に採用され、前記品種に入れ替わったが、ウシオコムギは赤カビ病には強いが晩熟で品質も十分でなかったため伸び悩み、昭和48年に奨励品種から除かれた。現在はシラサギコムギが唯一の奨励品種であり、品質の評価も高く栽培面積のおよそ90%を占めている。

第9表 小麦奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨励品在年数	備 考
宝 満	明治43	大正9	10	原種圃が設置されていた品種 昭和7年奨励品種決定試験始まる。
筑 摩	" 43	" 9	10	
徳 島 宝 満	大正10	" 15	5	
徳 島 筑 摩 29号	" 11	昭和7	10	
中 相 州 畿 内 5号	" 13	" 19	20	
徳 島 宝 満 3号	" 15	" 14	13	
江 島 神 力	昭和7	" 33	26	
農 林 43号	" 14	" 36	22	
" 52号	" 19	" 42	23	
" 65号	" 19	" 42	23	
シラサギコムギ	" 36		継 続	
ウシオコムギ	" 42	昭和48	6	

3. そ の 他

水稲および麦類の他に奨励品種が定められていた作物には陸稲、大豆、トウモロコシ、ナタネ、サツマイモ、シャガイモなどがある。

大豆については、現在も奨励品種があるが、陸稲は一般農家の栽培がほとんどなくなったため、昭和48年に奨励品種を廃止し、その他の作物も自然消滅のかたちでなくなった。

第10表 大豆奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨励品在年数	備 考
花 不 知	昭和10	昭和27	17	準奨励品種
徳 島 大 豆 2号	不 明	" 33	—	
八 月 大 豆	昭和13	" 54	41	
目 白	" 13	" 41	28	
矢 作	" 25	" 42	17	
玉 錦	" 26	" 56	30	
タ マ ム ス メ	" 33		継 続	
ア キ ヨ シ	" 54		継 続	
フ ク ユ タ カ	" 56		継 続	

第13章 原原種・原種の育成配布

第11表 トウモロコシ奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
徳島黄色在来種	昭和13	昭和16	3	昭和13年原種圃設置 昭和48年以降自然消滅した。
徳島1号	" 16			
長交202号	" 31			

第12表 サツマイモ奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
尼ヶ崎	昭和13	昭和17	4	原種圃が設置されていた。 昭和17年に七福と名称変更。 昭和48年以降自然消滅した。
源氏	" 13	" 18	5	
アメリカ	" 14	不 明	—	
護国	" 17			
高系3号	" 18	不 明	—	
農林2号	" 19	昭和33	14	
沖繩100号	" 20	" 23	3	
農林1号	" 21			
農林7号	" 24	昭和33	9	
クロシラズ	" 31	" 41	10	
ベニユタカ	" 41			"

第13表 ジャガイモ奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
アリーローズ	昭和19	昭和33	14	昭和48年以降は自然消滅した。
紅丸	" 19	" 33	14	
男爵	" 34年以前			
農林1号	" "			
シマバラ	" 36			

第14表 ナタネ奨励品種の改廃状況

品 種 名	採用年	廃止年	奨品在年数	備 考
農林6号	昭和23	昭和33	10	昭和48年以降自然消滅した。
農林14号	" 27			
ツクシナタネ	" 27	昭和36	9	" "
ミチノクナタネ	" 31			

第2編 研究業績

第15表 水稲主要品種の作付動向

年 度	作付面積 (ha)	10 a 当収 量 (kg)	1 位		2 位		3 位	
			品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)
大 10	28,801	263	神 力	15	改 良 神 力	7	早 生 神 力	5
昭 6	27,757	250	徳 島 旭 7 号	51	徳 島 神 力 36 号	6	早 生 神 力 129 号	4
16	28,403	238	徳 島 旭 7 号	20	愛 知 旭	17	徳 島 晩 稲 1 号	12
26	27,890	285	徳 島 晩 稲 1 号	16	農 林 18 号	12	愛 知 旭	7
31	31,000	312	農 林 18 号	13	愛 知 旭	9	高 尾 稲 38 号	7
32	30,800	317	農 林 18 号	9	ア ケ ボ ノ	8	ミ ホ ニ シ キ	7
33	31,200	314	ア ケ ボ ノ	8	金 南 風	8	ミ ホ ニ シ キ	7
34	31,300	345	ア ケ ボ ノ	8	金 南 風	8	サ チ ワ タ リ	8
35	31,200	316	サ チ ラ タ リ	14	金 南 風	10	農 林 29 号	8
36	31,000	300	サ チ ワ タ リ	18	金 南 風	9	農 林 29 号	9
37	30,700	356	サ チ ワ タ リ	20	農 林 29 号	9	金 南 風	8
38	30,900	332	サ チ ワ タ リ	22	農 林 29 号	9	ア ケ ボ ノ	9
39	30,100	353	サ チ ワ タ リ	22	ア ケ ボ ノ	9	農 林 29 号	8
40	29,800	269	サ チ ワ タ リ	21	ア ケ ボ ノ	9	農 林 29 号	8
41	29,600	352	サ チ ワ タ リ	18	農 林 29 号	8	ア ケ ボ ノ	8
42	29,000	369	サ チ ワ タ リ	17	ア ケ ボ ノ	8	農 林 29 号	7
43	28,600	349	サ チ ワ タ リ	16	ア ケ ボ ノ	8	コ シ ヒ カ リ	7
44	27,800	401	サ チ ワ タ リ	15	ア ケ ボ ノ	8	セ ト ホ ナ ミ	8
45	25,100	341	サ チ ワ タ リ	15	セ ト ホ ナ ミ	11	日 本 晴	9
46	22,900	333	サ チ ワ タ リ	17	日 本 晴	15	セ ト ホ ナ ミ	13
47	22,100	378	日 本 晴	20	サ チ ワ タ リ	18	セ ト ホ ナ ミ	12
48	21,700	398	日 本 晴	27	サ チ ワ タ リ	15	セ ト ホ ナ ミ	12
49	22,100	385	日 本 晴	33	サ チ ワ タ リ	13	セ ト ホ ナ ミ	10
50	22,200	405	日 本 晴	39	サ チ ワ タ リ	10	セ ト ホ ナ ミ	6
51	21,900	371	日 本 晴	42	サ チ ワ タ リ	9	ミ ネ ユ タ カ	9
52	21,600	419	日 本 晴	44	ミ ネ ユ タ カ	10	サ チ ワ タ リ	8
53	19,600	436	日 本 晴	45	ミ ネ ユ タ カ	10	サ チ ワ タ リ	7
54	19,400	390	日 本 晴	46	ミ ネ ユ タ カ	10	サ チ ワ タ リ	7
55	18,400	362	日 本 晴	48	ミ ネ ユ タ カ	9	コ シ ヒ カ リ	7
56	17,700	445	日 本 晴	49	ミ ネ ニ シ キ	10	ミ ネ ユ タ カ	8
57	17,500	388	日 本 晴	51	ミ ネ ニ シ キ	10	コ シ ヒ カ リ	8

作付面積、収量は統計情報事務所・品種別作付割合は食糧事務所の資料による。

第13章 原原種・原種の育成配布

4 位		5 位		6 位		橋 種		奨励品種
品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	普及率 (%)
讃 岐	4	権 八	3	新 関 取	2			30
徳島晩稲1号	4	改良神力11号	3	虎 丸 5 号	3	高尾糯38号	6	
徳島神力36号	6	み の る	4	千 本 旭	4	高尾糯38号	8	
西海21号	4	黄 玉	4	農 林 8 号	3	高尾糯38号	8	
農 林 37 号	6	シ モ ツ キ	6	ア ケ ボ ノ	5	コトブキモチ	1	
愛 知 旭	6	農 林 37 号	6	高尾糯38号	6	祝 糯	1	
農 林 29 号	7	農 林 37 号	6	農 林 18 号	6	高尾糯38号	5	
農 林 29 号	7	農 林 17 号	7	ミ ホ ニ シ キ	6	高尾糯38号	5	
ア ケ ボ ノ	7	農 林 17 号	6	ミ ホ ニ シ キ	5	高尾糯38号	3	
ア ケ ボ ノ	7	ミ ホ ニ シ キ	5	東 山 38 号	4	高尾糯38号	3	
ア ケ ボ ノ	8	ミ ホ ニ シ キ	5	東 山 38 号	4	高尾糯38号	3	
金 南 風	7	東 山 38 号	5	ミ ホ ニ シ キ	4	祝 糯	3	
金 南 風	7	東 山 38 号	5	ミ ホ ニ シ キ	4	祝 糯	3	
金 南 風	7	ミ ホ ニ シ キ	4	東 山 38 号	3	祝 糯	3	
金 南 風	5	コシヒカリ	5	東 山 38 号	5	コトブキモチ	3	
コシヒカリ	6	東 山 38 号	5	金 南 風	5	祝 糯	2	
農 林 29 号	5	セトホナミ	5	金 南 風	4	コトブキモチ	2	
コシヒカリ	7	ヤ マ ビ コ	5	東 山 38 号	5	コトブキモチ	2	59
コシヒカリ	8	ア ケ ボ ノ	7	ヤ マ ビ コ	5	コトブキモチ	3	65
コシヒカリ	7	ア ケ ボ ノ	6	ヤ マ ビ コ	5	コトブキモチ	3	76
ア ケ ボ ノ	7	コシヒカリ	6	ヤ マ ビ コ	4	コトブキモチ	2	77
ア ケ ボ ノ	6	コシヒカリ	6	越 路 早 生	4	コトブキモチ	3	77
コシヒカリ	5	越 路 早 生	5	ア ケ ボ ノ	4	コトブキモチ	3	69
ミネユタカ	6	越 路 早 生	5	コシヒカリ	5	コトブキモチ	3	72
越 路 早 生	5	コシヒカリ	5	セトホナミ	5	コトブキモチ	2	76
越 路 早 生	5	コシヒカリ	5	セトホナミ	4	コトブキモチ	2	78
越 路 早 生	5	コシヒカリ	5	セトホナミ	2	コトブキモチ	2	77
コシヒカリ	6	越 路 早 生	6	ミ ネ ニ シ キ	3	クレナイモチ	2	80
ミネニシキ	7	越 路 早 生	6	サ チ ワ タ リ	5	クレナイモチ	2	84
コシヒカリ	7	越 路 早 生	6	サ チ ワ タ リ	4	クレナイモチ	2	86
ミネユタカ	6	越 路 早 生	6	サ チ ワ タ リ	3	クレナイモチ	2	88

作付割合は梗、糯合計に対する比率である。

第16表 麦類主要品種の作付動向

種類	年 度	作付面積 (ha)	10a 当収 量 (kg)	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		
				品 種 名	作付 比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名	比率 (%)	品 種 名
裸	昭 7	24,113	1.74 石	德島珍好1号	23	德島白麦8号	19	德島珍好83号	19	德島九州13号	6	德島香川裸73号	6	
	15	23,052	1.80	德島白麦8号	75	德島珍好83号	6	德島珍好1号	4	德島香川5号	3	德島九州13号	2	
	20	23,604	1.37	"	43	德島香川5号	19	德島珍好83号	14	早 生	5	德島珍好1号	5	
	26	23,680	1.59	"	33	"	32	赤 神	3	"	3	"	3	
	31	23,630	1.52	"	39	"	25	"	7	德島珍好83号	6	德島香川1号	5	
	35	20,300	291 kg	"	38	"	21	セトハダカ	8	赤 神 力	7	德島香川1号	6	
	40	10,500	292	コウナギハダカ	50	德島白麦8号	27	德島香川5号	9	ハヤウレハダカ	6	ユウナギハダカ	1	
	45	6,570	135	"	76	"	2	ハヤウレハダカ	3	德島香川5号	2	セトハダカ	1	
	50	2,100	269	"	93	"	1	"	2	セトハダカ	2	"	1	
	55	1,090	274	"	97	ハヤウレハダカ	1	セトハダカ	1	ピワイロハダカ	1	セトハダカ	1	
	57	748	269	"	93	ピワイロハダカ	6	ハヤウレハダカ	1	德島白麦8号	0.1	德島白麦8号	1	
	小	昭 7	2,934	1.57 石	中相州畿内5号	24	德島宝満3号	21	德島筑摩5号	15	德島宝満3号	9		
		15	4,458	1.65	江 島 神 力	57	中相州畿内5号	17	中相州畿内5号	10	德島宝満3号	9		
20		3,710	1.15	"	50	小麦農林43号	25	小麦農林65号	11	小麦農林43号	10			
26		4,470	1.57	"	29	小麦農林52号	14	江 島 神 力	19	"	9			
31		4,180	1.63	小麦農林65号	31	"	25	シラサギコムギ	17	"	7	江 島 神 力	6	
35		5,040	294 kg	"	31	"	29	シラサギコムギ	17	"	7			
40		5,590	283	シラサギコムギ	73	小麦農林65号	12	小麦農林52号	11	小麦農林65号	4			
45		2,050	65	"	84	小麦農林52号	7	ウシオコムギ	4	小麦農林65号	4			
50		468	306	"	83	ウシオコムギ	8	"	1	小麦農林65号	0.2			
55		560	314	"	83	"	14	小麦農林65号	1	小麦農林65号	0.2			
57		544	336	"	91	"	9	セトコムギ	0.2	小麦農林65号	0.2			